

第三十六條 事務局ノ許可ヲ受クルニ非レハ患者ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第六章 患者心得

第三十七條 外來患者ノ診察ハ急患劇症ヲ除ク外總テ患者參院ノ順序ヲ以テス

第三十八條 入院治療ヲ願フ者ハ札幌市街ニ居住シ相當ノ資力アル者ヲ保證人トシテ左ノ書式ノ證書ヲ差出サシム

但願人ノ便宜ニ依リ入院料ヲ前納スルモ妨ケナシ
(用紙半紙)
入院證 貼用紙

北海道廳下何郡何村何番地
(居住ノ借家ノ寄留ノ寄留ハ其本籍ヲモ記入ス可シ)
身分職業

何ノ誰 年 齡

右ハ今般^{上等}入院御治療相願候ニ付本人身元ノ義ハ保證人ニ於テ一切引受御規則可相守ハ勿論入院料等十日毎ニ可相納萬一本入相滯候節ハ保證人ニ於テ屹度辨償可仕候仍テ證狀如件

年月日

右願人

何ノ誰 年 齡

保證人

何ノ誰 年 齡

肩書前ニ同シ

何ノ誰 年 齡

札幌病院 御中

第三十九條 入院治療ヲ請フ者官署ノ照會ニ係ルトキハ前條ノ證書ヲ要セスシテ入院セシムルコトアル可シ

第四十條 外科手術ヲ願フ者ハ左ノ書式ノ證書ヲ差出サシム

外科手術依託書 貼用紙

北海道廳下何郡何村何番地居住
(借家ノ同居ノ寄留ノ寄留者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ)

何ノ誰 年 齡

右ハ何病ニ罹リ手術治療御依託候ニ付テハ御手術中ハ勿論以後何様ノ變症相生候共聊カ遺憾無之候依テ保證人連署狀如件

右願人

何ノ誰 年 齡

保證人

何ノ誰 年 齡

肩書前ニ同シ

何ノ誰 年 齡

札幌病院 御中

第四十一條 入院患者ハ左ノ條項確守スヘシ

一 院長回診ノ節ハ最モ靜肅ヲ要スルヲ以テ患者互ニ私語シ或ハ喫烟ス可カラス

一 入院中ハ攝生禁忌運動靜息等總テ醫員ノ指示ニ從フ可シ

一 入院患者若シ止テ得サル事故アリテ外出セント欲スルトキハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ

一 別ニ看護人ヲ雇入レ又ハ親戚等ノ看護ヲ要スルトキハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ

一 醫員ノ許可ナクシテ三食ノ外飲食物ヲ供用ス可カラス

一 入院中所持ノ金錢及重要ノ物品ハ事務局ニ依託ス可シ

一 事務局ノ許可ナクシテ互ニ金錢ヲ貸借ス可カラス

第四十二條 前條ノ規程ニ違フ者ハ退院ヲ命スルコトアル可シ

開拓使事業報告抄録

函館病院 渡島國函館郡

明治二年九月本院ヲ函館府ヨリ請取函館病院ト名ク

(備考)

開拓使事業報告抄録
按ニ安政六年露西亞國岡士「ゴスクウ井ット」函館ニ病院ヲ設ケ我人民ノ病ヲ救治セントス函館醫業本館
庵鹽田順庵等以爲ク荷モ鎮疊ヲ置クノ地ニシテ病院ノ設ナキハ國ノ興典ナリ宜ク一病院ヲ興スニ如カ
スト乃チ市中衆醫ニ識シ募金法ヲ設ク設立ヲ企ツ萬延元年十一月函館山ノ上町ニ病院建築ノ工ヲ起シ
文久元年六月成ル醫學所ト稱ス醫學講習規則ヲ定ム明治元年五月函館醫學所ヲ更メテ民政部病院トス
モナクシテ又舊ニ復ス

大學東校へ達 三年四月十九日

函館病院自今其校管轄被仰付候事

開拓使へ達 三年四月十九日

函館病院自今大學東校管轄ニ被仰付候條此旨相達候事

開拓使伺 三年十月日

函館病院其外北海道諸醫官ノ儀去秋大學東校ヘ示談中助教比等以下ノ醫生ヲ當使ヘ引受所管ノ官員ニ
シテ萬般取附病院規則藥種器械等迄當使限ニテ夫夫相整來候然ル處函館病院ノ儀ハ開港場ニモ有之殊
更陸精ニ無之ヲ不相叶第一疾病ヲ治療シ人命ヲ保持スルノ儀ハ開拓ノ最緊要タル筋ニシテ須臾モ緩セ
ニ難仕既ニ去冬來樺太ヲ始根室宋也杯ハ入込候農工民等ノ内瘴癘沍寒ノ風土ニ不慣許多及殞命候段實
以憫然ノ次第其豫防セシムルノ道又充分精勵ノ域ニ至兼候段ハ何ノモ恐懼ノ至畢竟中助教比等以下ノ
醫官ヲ當使ヘ引受病院等ノ事委託仕置候テハ治療物理ノ節ヲ始其精研ヲ不盡備ハ勿論函館病院ノ儀外
國人居留ノ場所ニモ有之長崎横濱等一貫スルノ處置無之ヲ不叶ニ付更ニ北海道醫官ノ進退病院規則ヲ
始メ藥種器械ニ至迄悉ク大學東校ノ取扱ニイテシテ尙業術相應ノ醫官彼地ヘ差向ケ後來治療筋ハ勿論物
理精究其地ニシテ藥草藥石ヲ採製スルノ儀ヲモ相開キ衆民保全ノ道相盡シ候條仕度候間其旨大學東校
ヘ御沙汰被下候條奉存候申
指令 三年四月十九日
可爲伺ノ通最費用ノ儀ハ其使定額ヲ以テ可相充事

函館支廳渡島國函館郡

函館ニ病院ヲ置ク

三年四月十九日達シテ

大學管轄トナス

六年三月六日札幌本廳達

無誤ナリテ病院規則ヲ定

十七年九月函館縣布達甲

第三十三號ヲ以テ懸立ト

ス

大學東校ニ函館病院ヲ

管轄セシム

四年十一月日函館大學ノ所

轄ヲ止ム

札幌本廳後志國樺都郡

中歌村ニ假病院ヲ置ク

十四年十一月日函館止ス

九年五月函館支廳達第六

十四號ヲ以テ名稱ヲ改ム

函館病院大學東校ノ直

轄ヲ止ム

函館支廳後志國久遠郡

一艘瀬村外ニ假所ニ假

病院ヲ置ク

八年八月日函館縣假病院

ヲ置ク

十年四月日開久遠出郡所

ヲ置ク

十四年十二月日函館出郡

所ヲ置ク

九年五月函館支廳達第六

十四號ヲ以テ名稱ヲ改ム

函館支廳渡島國津和野郡

福山外ニ假所ニ假病院

ヲ置ク

十一年十二月日函館出郡

所ヲ置ク

十二年三月函館支廳達第

十六號ヲ以テ江差山縣所

ヲ置ク

九年五月函館支廳達第六

十四號ヲ以テ名稱ヲ改ム

開拓使事業報告抄録

壽都病院 後志國樺都郡

明治四年四月札幌本廳假病院ヲ置キ大學東校所管トス十一月本使所轄ニ復ス五年二月函館支廳管轄ニ

歸ス

開拓使事業報告抄録

久遠假病院 後志國久遠郡

明治四年十一月大學東校所轄ヲ止メ本使直轄ニ復ス

開拓使事業報告抄録

福山假病院 渡島國津和野郡

明治五年二月福岡藩支配地上地ノ際受取假病院ト爲ス

開拓使事業報告抄録

歌棄假病院 後志國歌棄郡

明治五年二月斗南藩支配地上地ノ際受取假病院ト爲ス

開拓使事業報告抄録

江差假病院 渡島國檜山郡

明治六年二月假病院ヲ置ク

開拓使函館支廳達

無誤 六年三月六日

十七年九月函館總連乙第
五十一號ヲ以テ設立病院
規則ヲ定ム

病院規則別紙ノ通相定候條此旨相違候事
入院患者規則

一患者入院差許候節ハ藥價賄料共併テ一日二十錢二十五錢三十錢ノ三等ニ區別シ本人ノ望ニ任セ代金
月末ニ可相納事

但官員初從者ノ分ハ都テ其主人ヨリ願出管内士族以下平民ニ至迄入院ノ節ハ親戚等ノ内ヲ以テ證
人相立請書差出候上ニテ入院差許難症ニテ若死去候共聊故障ノ筋申出間敷事
外來患者規則

一外來患者ノ儀ハ藥價定表ノ通月末ニ必ス上納可致事
救助患者規則

一救助患者入院并施藥ノ儀ハ公務上ヨリ病ニ罹ル者ハ其主宰ノ局局ヘ市在窮民ハ民事掛ヘ願出候ハハ
其局局ニ於テ事情取糺ノ上申越次第入院施藥共聞届候事
救助患者入院規則

救助患者費用一切病院定額金ヨリ拂出候ニ付入院ノ人員毎月凡五人ト定ムヘク且右患者人員每度庶務
掛ヘ病院ヨリ達置ヘキ事

藥價定表

藥名	水藥	丸藥散藥	泡劑外敷藥	點眼水一瓶	膏藥一具
一日分	五錢	各四錢	各三錢	二錢	一錢

右藥價每月末上納可致候事

開拓使事業報告抄錄

森假病院 渡島國茅部郡 森村ニアリ

島牧假病院 後志國島牧郡 永豐村ニアリ

十年四月函館支廳建設第三
十四號ヲ以テ四假病院ヲ
廢ス九年五月函館支廳建設
第六十四號ヲ以テ名稱ヲ
改ム

函館支廳管内醫務員旅
費渡方制限

十七年九月函館總連乙第
五十一號ニ依テ消滅ス

山越假病院 膽振國山越郡 山越村ニアリ

長萬部假病院 膽振國山越郡長 萬部村ニアリ

明治六年五月函館支廳出張所ヲ置キ假病院ヲ設ク

開拓使函館支廳達 第六年十月二日

醫員病用ニ付出行旅費渡方制限別紙之通相定明治六年九月二十二日ヨリ改正候條此段相違候事
右之趣爲心得相違候也

函館支廳并同管内詰醫員病用ニ付出行旅費渡方制限

第一條

一函館支廳直轄ノ市在貧窮者或ハ不得止事故有之官費治療願出候者ハ正副戸長ニテ篤ト取調願書與印
之上申立候節支廳長官ヨリ 長官旅出等ノ節ハ次官 醫員看病出張申付候節ハ藥價モ官費ニ相立候ニ付
旅費其出張道路之遠近一泊等ノ無區別變則ニ照準シ給與スヘキ事

第二條

一東西各郡及近傍出張所等醫員被差置候場所其所轄内貧窮之者或ハ不得止事故有之官員治療願出候者
ハ第一條手續之通其出張所ヘ願出候ハハ詰合之主權之官員ニテ醫員ヘ出張ヲ命シ其段委細支廳ヘ可
申立藥價及出張之旅費共支給スヘキ事

第三條

一御雇或ハ徵募等之者ニテ官費治療可相成規有之者診察之爲出張之醫員旅費モ前同様官費ヲ以テ支
給スヘキ事

第四條

一右之外總テ自己相對願ト見做シ旅費ハ不支給藥價兼テ成規之通爲相納可申事

第五條

一自己相對願病者之爲ニ醫員出張之節御備品借用相願候節官ノ差支無之者時宜次第貸渡候事

函館病院 瀨棚出張所
 函館病院 森 出張所
 函館病院 山越内出張所
 函館病院 長萬部出張所
 函館病院 戸井出張所

開拓使函館支廳達 第十年四月五日

當廳管内病院出張所廢置之儀ニ付別紙ノ通民事課へ相達候條爲心得此旨相達候事

開拓使函館支廳達 第十年四月五日

當廳管内病院出張所左之四箇所ヲ存シ其他相廢シ候條此旨相達候事

函館病院 福山出張所
 函館病院 江差出張所
 函館病院 壽都出張所
 函館病院 瀨棚出張所

開拓使事業報告抄録

函館病院奥尻出張所 後志國奥尻郡 釣掛村ニアリ

明治十一年七月醫員一名ヲ遣リ假ニ函館病院奥尻出張所ト稱ス

開拓使事業報告抄録

十一年十二月公立病院建設ニ及テ函館病院福山出張所ヲ廢ス

函館支廳鳴久遠森山 越内長萬部戸井出張所

十一年七月日函館支廳奥 尻郡釣掛村ニ病院出張所

ヲ假設ス

十一年十二月日函館山出 張所ヲ廢ス

十二年三月函館支廳建第 十六號ヲ以テ江差出張所

ヲ廢ス

十四年十一月日函館郡山 出張所ヲ廢ス

同年十二月日函館郡山出 張所ヲ廢ス

函館支廳後志國奥尻郡 釣掛村ニ病院出張所ヲ

假設ス

函館支廳福山出張所ヲ

廢ス

函館支廳江差出張所ヲ

廢ス

函館支廳壽都出張所ヲ

廢ス

函館支廳瀨棚出張所ヲ

廢ス

函館縣函館區立病院ヲ

縣立トス

十七年九月函館縣達乙第

五十一號ヲ以テ病院規則

ヲ定ム

函館縣立病院規則及

職員俸給月俸旅費支給

方

十七年九月函館縣達乙第

四十一號ヲ以テ縣立病院

入院患者心算ヲ定ム

開拓使函館支廳達 第十二年三月六日

函館病院江差出張所來ル八日限リ相廢候條爲心得此旨相達候事

開拓使事業報告抄録

十四年十一月公立病院ヲ設クルニ及テ函館病院壽都出張所ヲ廢ス

開拓使事業報告抄録

十四年十二月公立病院ヲ設クルニ及テ函館病院瀨棚出張所ヲ廢ス

函館縣布達 十七年九月十三日

函館區立函館病院ヲ縣立トナシ縣立函館病院ト稱シ候條此旨布達候事

函館縣達 乙十七年九月十三日

縣立函館病院規則及職員俸給額月俸旅費支給法相定別紙ノ通函館病院へ相達候條爲心得此旨相達候事

別紙

函館縣達 十七年九月十三日

其院規則及職員俸給額月俸旅費支給法別紙ノ通相定候條此旨相達候事

縣立病院規則

第一條 本院ハ人民ノ健康ヲ保護シ醫事ノ開進ヲ圖リ患者ヲ診察治療ス

第二條 院中醫局藥局事務局ヲ置キ庶務ヲ分掌ス

第三條 昇降時限ハ午前九時參院午後三時退院トス

但日ノ長短ニヨリ之ヲ伸縮スルコトヲ得
第四條 年中休暇左ノ如シ

一月一日ヨリ 一月三日迄

紀元節 神武天皇祭

天長節 札幌神社祭

春季皇靈祭 秋季皇靈祭

神嘗祭 新嘗祭

日曜日 十二月二十九日ヨリ十二月三十一日マテ

第五條 外來患者ハ第三條ノ時限ニ診察ス

但急患者ハ此限リニアラス

第六條 患者中歩行困難ナル者ハ往診ス

第七條 藥價ハ左ノ區別ニ依リテ其額ヲ徴收ス

水藥一日分 金七錢 丸藥一日分 甲金七錢 乙金五錢

散藥一日分 甲金七錢 乙金五錢 順服藥一劑 甲金五錢 乙金三錢

外布藥一劑 甲金五錢 乙金三錢 點眼水 金四錢

膏藥大貝 甲金六錢 乙金三錢 同 中 貝 甲金四錢 乙金二錢

同 小 貝 甲金三錢 乙金一錢

第八條 入院治療ヲ請フ者ハ函館區内ニ住居スル者ヲ以テ保證人トナシ入院中ノ費用ヲ辨償スヘキ證

書ヲ出サシムヘシ

第九條 入院患者藥價賄料ハ左ノ金額ヲ徴收ス

入院藥價 一日分 金十錢

十七年十月函館縣達乙第
五十五號ヲ以テ第十條ヲ
改正ス

第十條 局員職制左ノ如シ

院長 一名

一 院長ハ縣令ノ命ヲ奉シ院務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

二 院長ハ監事以下各職員ノ進退黜陟ヲ具狀スルコトヲ得

三 院長ハ院務ノ繁閑ヲ計リ管内ヲ巡回シ地方ノ患者ヲ診察シ及醫術ノ改良衛生普及ノ方法ヲ計ル

監事 一名 (一、二等醫ヲ以テ)

一 監事ハ院長ノ職掌ヲ補佐シ院長事故アレハ代理スルヲ得

當直醫 定員ナシ (一、二等醫ニ充ツ)

一 當直醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ内外患者ノ治療ニ從事ス

二 院長監事事故アレハ首坐ノ醫員其代理タルヲ得

副當直醫 定員ナシ (三、四、五等醫ヲ以テ)

一 副當直醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ當直醫ヲ補助シ局務ニ從事ス

司藥長 一名

一 司藥長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑製藥ヲ主掌シ及藥品器械ノ眞贋精粗ヲ監別ス

司藥 定員ナシ

一 司藥ハ院長或ハ司藥長ノ指揮ヲ受ケ調劑又ハ製藥ニ從事ス

書記 定員ナシ

一 書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ常務會計ヲ掌ル

函館病院職員俸給

入院薪炭油費 一日分 金六錢
入院賄料 一日分 金十錢
上金二十一錢
中金十八錢
下金十五錢

函館病院	長	監	事	記
月俸	三百圓以上	二百五十圓以上	二百圓以上	二百圓以下
函館病院	一等醫	二等醫	三等醫	司藥長
月俸	百二十圓以上	百五十圓以上	百圓以上	八十圓以上
函館病院	司藥	司藥	司藥	司藥
月俸	六十圓以上	六十圓以上	六十圓以上	六十圓以上

月俸旅費支給法

第一條 月俸ハ毎月十七日支給スルヲ定則トス
 第二條 免職又ハ奉職中病死ノ者ニハ其節ノ月俸半額ヲ以テ勤績一箇年ニ充テ拜命以來ノ年數ニ乗シ手當トシテ之ヲ給スヘシ
 第三條 旅費ハ一日十里詰ヲ以テ表面ノ通り日當ヲ支給スヘシ

旅費日當表

並旅行	赴任旅行	晝夜急行	滯留	管内並旅行	同上滯留
金二圓七十錢	金三圓	金三圓	金六十錢	金一圓五十錢	金五十錢

第四條 前各條ノ外月俸及旅費支給法ハ一般ノ月俸及旅費規則ニ據リ之ヲ支給ス

函館縣告示 第十七号 九月十三日
 函館縣立病院入院患者心得

縣立函館病院入院及外來患者心得別紙ノ通候條此旨告示候事

入院患者心得

第一條 入院治療ヲ乞フモノハ函館住居ノ者ヲ保證人トナシ左ノ書式ノ證書ヲ事務局ヘ差出スヘシ但戸長ノ證書ヲ持參スルモノハ此限ニアラス

入院證

縣國郡區町村番地住居(借家)寄留

(寄留ナルハ其本籍ヲ記載スヘシ)

族籍職業

姓 名 年 齡

右今般入院治療相願候ニ付本人身元ノ儀ハ保證人ニ於テ一切引受御規則爲相守候ハ勿論藥價等十五日毎ニ可相納萬一相滞候節ハ保證人ニ於テ屹度辨償可仕候依之證狀如件

年號月日

願 人 姓 名

縣國郡區町村番地住居(借家)寄留

(寄留ノモノハ其本籍ヲ記載スヘシ)

保 證 人 姓 名

縣國郡區町村番地住居(借家)寄留

族籍職業

姓 名 年 齡

第二條 保證人トナリタル者函館區外ニ轉居スルトキハ更ニ證人ヲ立テ前條ノ證書差出スヘシ
 第三條 外療手術ヲ乞フモノハ左ノ證書ヲ差出スヘシ

外療手術依託證

縣國郡區町村番地住居(借家)寄留

族籍職業

姓 名 年 齡

右ハ何々病ニ罹リ手術治療御依託ニ付テハ御手術中ハ勿論以後何様ノ變症相出候共聊カ迷惑無之依テ保證人連署證狀如件

年號月日

手術願人 姓 名

縣國郡區町村番地住居(借家)寄留

(寄留ノモノハ其本籍ヲ記載スヘシ)

保 證 人 姓 名

函館病院宛

- 第四條 藥價賄料雜費ハ毎月十五日三十日ノ兩度ニ事務局ヘ納ムヘシ
但退院スルトキハ退院ノ節還納スヘシ
- 第五條 入院中禁忌攝生運動靜息等ハ總テ醫員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第六條 入院中ハ左ノ所爲ヲ許サス
 - 第一項 病室内ニテ放歌又ハ高聲談話ノコト
 - 第二項 看病人ノ通知ヲ待スシテ入浴スルコト
 - 第三項 入院中相互金錢衣服ヲ貸借スルコト
 - 第四項 諸商人ヲ室内ニ呼入物品賣買ヲナスコト
 - 第五項 看病人小使等ヘ贈遺ヲナスコト
 - 第六項 病室ニ金錢及貴重ノ物品ヲ所持スルコト
- 第七條 正副院長退出ノ後變症アルトキハ直ニ當直醫ニ通知スヘシ
- 第八條 外出セントスルトキハ其事由ヲ當直醫ニ告ケ許可ヲ受クヘシト雖トモ歸院ハ午後十時ヲ限リトス
但不得止宿スルトキハ保證人ヨリ其由ヲ届出スヘシ
- 第九條 退院セントスル者ハ當直醫ニ申出其證書ヲ受クヘシ
- 第十條 看病者ヲ備入ルルカ又ハ家族親戚ニテ看病ヲ請フ者ハ其意ニ任スト雖トモ二人以上在室スルヲ許サス
但二人以上ヲ要スルモノハ其事由ヲ告ケ許可ヲ受クヘシ
外來患者心得
- 第一條 新ニ診察ヲ乞フ者ハ先ツ事務局ニ至リ族籍姓名ヲ述ヘ番號札ヲ受ケ醫局ニ至リ診察ヲ受ク可シ

函館縣立函館病院規則中ヲ改正ス

- 但第二回目ヨリハ番號札ヲ携ヘ直ニ醫局ニ至ルヘシ
- 第二條 前條診察終レハ處方箋ヲ事務局ニ携帶シ藥價ヲ收メ然ル後藥局ニ至リ調劑ヲ乞フヘシ
- 第三條 患者重症ニシテ歩行シカタクモノハ其事由ヲ事務局ニ述ヘ回診ヲ乞フヘシ
- 第四條 聾啞癡狂老幼ノ患者ニハ父兄又ハ親類ノモノ附添ヒ來院スヘシ

函館縣達 乙十七年十月六日 第五十五號 郡區役所 局長 役場

縣立函館病院規則第十條改正ノ儀別紙ノ通函館病院ヘ相達候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

函館縣達 乙十七年十月六日 第五十五號 郡區役所 局長 役場

其院規則第十條別紙ノ通改正候條此旨相達候事

函館病院規則

第十條 局員職制左ノ如シ

院長 一名

- 一 院長ハ縣令ノ命ヲ奉シ院務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
- 二 院長ハ監事以下各職員ノ進退黜陟ヲ具狀スルコトヲ得
- 三 院長ハ院務ノ繁閑ヲ計リ管内ヲ巡回シ地方ノ患者ヲ診察シ及醫術ノ改良ヲ計ル
- 監事 一名
 - 一 監事ハ院長ノ職掌ヲ補佐シ院長事故アレハ代理スルヲ得
 - 一等醫 一名
 - 二等醫 一名
 - 一 一等醫 二等醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ内外患者ノ治療ニ從事ス
 - 二 院長監事事故アレハ首座ノ醫員其代理タルヲ得
 - 二等醫 定員ナシ

- 一 二等醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ一等醫二等醫ヲ補助シ局務ニ從事ス
- 司藥長 一名
- 一 司藥長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑製藥ヲ主掌シ及藥品器械ノ眞實精粗ヲ監別ス
- 司藥 定員ナシ
- 一 司藥ハ院長或ハ司藥長ノ指揮ヲ受ケ調劑又ハ製藥ニ從事ス
- 書記 定員ナシ
- 一 書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ常務會計ヲ掌ル

開拓使事業報告抄錄

根室病院 根室國根室郡根室彌榮町ニアリ

明治二年十月松前藩舊官舎ヲ以テ醫員假事務所トナシ患者ヲ治療ス七年九月彌榮町病院新築ニ著手ス八年十一月落成開院式ヲ行フ

開拓使事業報告抄錄

明治五年九月釧路國厚岸郡厚岸、同郡濱中、釧路郡釧路、北見國網走郡網走、紋別郡紋別、千島國國後、振別郡振別、紗那郡紗那八箇所ニ官立病院ヲ設置ス

(備考)

開拓使事業報告抄錄

明治五年九月在來ノ官舎ヲ以テ假病院トナシ厚岸、濱中、釧路、網走、紋別、國後、振別、紗那病院ト稱ス

根室支廳根室國根室郡根室ニ病院ヲ設置ス
 十五年六月根室縣達丙第
 十號ヲ以テ病院體制并醫
 務章程ヲ定ム

根室支廳釧路國厚岸郡厚岸外七箇所ニ病院ヲ設置ス
 七年八月日岡紋別出張病院ヲ網走出張病院ニ合併ス
 十年三月日岡國後へ出張所ヲ置ス
 十二年一月日岡釧路出張所ヲ公立ニ改ム
 十三年十一月日岡厚岸出張所ヲ公立ニ改ム
 十五年一月日岡紗那出張所ヲ公立ニ改ム
 七年三月日岡各郡病院ヲ出張病院ト改稱ス

根室支廳根室國野付郡別海村ニ病院ヲ設置ス
 七年三月日岡出張病院ト改稱ス

根室支廳各郡病院ヲ出張病院ト改稱ス
 九年六月根室支廳達第
 八十一號ヲ以テ病院出張所ト改稱ス

根室支廳病院拂下藥劑價ヲ更正ス
 八年五月日岡根室支廳達無號ヲ以テ更正ス

根室支廳病院拂下藥劑價ヲ更正ス

開拓使事業報告抄錄

別海病院 根室國野付郡別海村ニアリ

明治六年十月官舎ヲ以テ病院トス

(備考)

開拓使事業報告抄錄

明治二年九月民家ヲ借シ患者ヲ治療ス支廳創設ノ際東京ニ於テ醫師二名ヲ登用シ十月一名ヲ別海ニ遣リ一名ヲ根室ニ留メ患者ヲ治療ス

開拓使事業報告抄錄

明治七年三月各郡病院ヲ某出張病院ト改稱ス

開拓使事業報告抄錄

七年八月紋別出張病院ヲ網走出張病院ニ併ス

開拓使根室支廳布達

於テ拂下藥劑價左ノ通更正來五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

更正一日分	三	錢	同	同	一	錢	同	同
藥名	水	藥丸	藥散	藥外	藥煎	藥	眼藥	膏藥
從前一日分	五	錢	各三錢五釐	各三錢五釐	三錢三釐	一錢七釐	同	同

開拓使根室支廳達 八年五月日岡

十一年一月根室支廳達ヲ以テ更正ス

藥劑價別紙ノ通五月一日更正施行候條市在へ可相達候也
更正藥劑價從前ノ代價

- 一 水藥一日分 金三錢 金五錢
- 一 丸藥同 同斷 金三錢三釐
- 一 散藥同 同斷 同斷
- 一 外用藥同 同斷 金六錢三釐
- 一 煎藥同 金一錢 金三錢三釐
- 一 眼藥同 同斷 金一錢七釐
- 一 膏藥同 同斷 同斷
- 以上

根室支廳出張病院ヲ病院出張所ト改稱ス

開拓使根室支廳達 九年六月九日 第九十一號 醫務總長

本年五月八日付ヲ以テ各出張所其他改稱等ノ儀相達候處各所病院ノ分詮議ノ次第有之別表ノ通更正候條此旨相達候事

院 病 廳 支 室 根		名 稱		事 務	
院 病	廳 支	厚 岸		ノ	體 裁
		網 野	濱 釧		
網走	野付	濱中	釧路	厚岸	根室
病院	病院	病院	病院	病院	病院
出張所	出張所	出張所	出張所	出張所	出張所
<p>醫務ハ主治掛者ハ事務兼助ノ事務ハ分署ニテ取扱該院ニ付テノ公文ハ同局上申等ニ係ルキテ其手續病院出張所ノ名ヲ署シ支廳病院ヲ宛凡テ記錄課ヲ經差出スヘシ</p>					

改 定

直 轄		振 別	
國 後	振 別	紗 那	振 別
病院	病院	病院	病院
出張所	出張所	出張所	出張所

開拓使事業報告抄録

明治十年三月費用節略ノ爲メ國後出張所ヲ閉院シ時時根室病院醫員ヲ派ス

開拓使根室支廳達 十一年一月二十五日

當廳管内各病院ニ於テ各人民診察ヲ請ヒ候者ニハ夫夫診斷ノ上藥劑價取立來候處本年二月一日ヨリ別紙甲號ノ通更正藥劑價取立候條若シ貧窮ニシテ其價上納不能者ハハ戶長總代等ニテ實情篤ト取調別記乙號ノ通半額施藥ニ種ニ區別ヲナセシ券證ヲ可下渡管ニ付戶長總代ニ兼テ右二種ノ證券下付致シ置候條夫夫可願出爲心得此旨相達候事

(別紙)

御拂下藥價

從 前	更 正
一 水藥 一日分 金三錢	同 同 金五錢
一 丸藥 同 同	同 同 同
一 散藥 同 同	同 同 同
一 外用 同 同	同 同 同

根室支廳管内病院藥價ヲ更正ス
十五年六月根室廳達第四十號ヲ以テ更正ス

根室支廳國後出張所ヲ廢ス

一煎藥	同	同一錢	合嗽藥	同
一眼藥	同	同	點眼水	同
一付藥	同	同	同	同
右ノ通	同	同	同	同
			大金	同
			小金	同
			一三錢	同

乙號

表面

用紙西ノ内

施藥券證

願人何郡何町村
何 誰

根室
病院印

裏面

何年何月何日

Blank box for back of certificate

同

表

半額券證

願人何郡何町村
何 誰

根室
病院印

裏

何年何月何日

Blank box for back of certificate

開拓使事業報告抄録

明治十二年一月釧路出張所火災ニ罹ル後公立病院ニ改ム

開拓使事業報告抄録

根室支廳釧路出張所
公立ニ改ム

根室支廳厚岸出張所
公立ニ改ム

根室支廳病院部下ノ患
者部外病院醫員ノ來診
手續ヲ定ム

明治十三年十一月人民ノ請願ニ由リ厚岸出張所ヲ公立ニ更ム
開拓使根室支廳達 十四年三月二十六日
管内各病院部下患病者ニ於テ更ニ部外病院醫員ノ來診ヲ請フ者ハ自今別紙手續書ニ照準可爲願出此旨
相達候事

(別紙)

- 第一條 管内各病院部下ニ於テ患者ノ冀望ニ依リ部外病院醫員ノ來診ヲ請ハントスルモノハ左ノ手續ニ隨フヘシ
- 第二條 部外病院醫員ノ來診ヲ乞フ者ハ所在病院ノ診斷書ヲ添ヘ願書ヲ郡役所又ハ戶長役場ヘ差出シ郡役所戶長役場ニ於テハ實際ヲ承認シ直ニ之レヲ該病院ニ送致スヘシ
- 第三條 部外病院ニ於テハ院務ノ繁閑ニ依リ請願ニ應スヘシト雖モ診斷書ヲ閱シ所在病院ノ治療適症ト認ムルトキハ出張セズ其旨該病院ヨリ郡役所又ハ戶長役場ヘ通知スヘシ
- 第四條 出張醫員往復旅費其他滞在日當ハ願主ニ於テ支辨スヘシ
- 第五條 旅費及ヒ滞在日當ハ官給日當ノ金額ヲ支辨スヘシ
但シ里數ハ十里ヲ以テ一日ノ行程トナス
- 第六條 前條金額ハ所在郡役所或ハ戶長役場ヘ出シ該所ニ於テハ精算ノ上醫員ヘ渡シ證書二通ヲ取り一通ハ願主ヘ渡シ一通ハ該所ノ控トナスヘシ
- 第七條 部外病院ニ於テハ出張ノ都度患者ノ願書及該地病院ノ診斷書郡役所又ハ戶長役場ノ照會書ヲ束テ支廳ヘ届出ヘシ

開拓使事業報告抄錄

明治十五年一月人民ノ請願ニ由リ紗那出張所ヲ公立病院ニ改ム

根室支廳紗那出張所ヲ
公立ニ改ム
二十年五月北海道第五
十六號ヲ以テ公立ニ改ム

根室縣公立病院職制及
ヒ醫務章程

根室縣達 十五年六月二十三日
今般根室縣立病院職制及ヒ醫務章程別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行候條此旨相達候事
但各出張病院并ニ公立病院ニ於テモ可成別冊職制等ニ據リ醫務調理可致儀ト可相心得事

(別冊)

根室縣病院職制及ヒ醫務章程

總則

- 一 病院ハ人民ノ疾病ヲ治療シ貧困患者ヲ救治シ產婆志望ノ者ヲ教授シ每週娼妓ノ梅毒検査ヲ執行シ傳染病アルトキハ之レカ豫防法及治療ヲ施ス等人民ノ健康ヲ保護スルニアリ
- 一 根室病院ヲ根室縣ノ本病院ト定メ其他ノ縣立病院ヲ根室本病院何所出張所トナシ公立病院ヲ併セ本病院ニ於テ之レヲ所轄セシム
- 一 本病院ニ左ノ擔任ノ科ヲ定メ院務一切ノ事ヲ分掌セシム

- 院長 當直醫
- 副當直醫 看護長
- 司藥官 調藥係
- 理事係

職制

院長一人

- 第一 事ヲ長官ニ承ケ病院一切ノ醫務ヲ調理ス
- 第二 常ニ當直醫以下ノ勤惰及治術ノ功拙ヲ監視シ意見アルトキハ之レヲ長官ニ具申スヘシ
- 第三 院員ノ分掌及派出等ハ長官之ヲ命スヘシト雖モ十里以內ノ派出ハ時宜ニ因リ處分シテ後具狀スルコトヲ得

十九年四月北海道達丙
第四號ヲ以テ職制ヲ改正ス

- 第四 豫メ看護婦ノ人員ヲ定メ之ヲ長官ニ具狀シ其進退黜陟ヲ專行ス
當直醫
- 第一 院長ヲ佐ケ患者ニ關スル一切ノ醫務ヲ擔任ス
- 第二 院長不在ノトキハ事務ヲ衛生課ニ商議シ院務ヲ調理スヘシ
副當直醫
- 第一 職當直醫ニ亞ク
- 第二 看護長關員ノトキハ之レヲ兼務スルコトアルヘシ
看護長
- 第一 病室一切ノ事ヲ管シ看護婦ノ勤怠ヲ監督シ其黜陟スヘキハ之レヲ院長及理事ニ商議スヘシ
- 第二 屢病室ヲ巡視シ患者不攝生ナキ様精密注意スヘシ
司藥監
- 第一 調藥上ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス
- 第二 藥品ノ眞實精粗ノ検査製煉及其貯藏等ヲ擔任シ調藥分量ノ差否ヲ監督シ苟モ調劑ニ過誤ナカラシムヘシ
調藥係
- 第一 處方箋ニ因リ調劑スルコトヲ擔任ス
理事係
- 第一 事ヲ院長ニ議シ院内金錢ノ出納及其他一切ノ雜務ヲ擔任シ役夫ノ勤怠ヲ監視スヘシ
事務章程
- 院長
- 第一 毎日入院患者及外來患者ヲ診察治療スヘシ
- 第二 來診ヲ乞フモノアラハ可成之レヲ往診スヘシ

- 第三 檢視上ニ係ル診斷ハ必ス自ラ之ヲ行フト雖モ其事ノ輕キモノハ當直醫ヲシテ診斷セシムルコトヲ得ヘシ
- 第四 部内外傳染病發起ノ兆候アルトキハ速ニ其景狀ヲ具申シ豫防法ノ意見書ヲ差出スヘシ
- 第五 微毒検査所ニ親炙シ検査法ノ適否ヲ監視スヘシ
- 第六 部外各病院ニ於テ重症ノ患者若クハ檢視上ニ係リ診斷ヲ要スルトキハ之ヲ長官ニ稟議スヘシ
- 第七 各病院在勤醫關員等ニテ醫務支障ノ場合於テハ之ヲ衛生課ニ商リ一時醫員ノ出張ヲ長官ニ稟議シ醫務ヲシテ濫帶勿ラシムヘシ
- 第八 當直醫ヨリ檢微員二名ヲ撰定シ其一名ヲシテ毎土曜日該所ニ派出檢微セシメ其一名ニ入院娼妓ノ治療ヲ管掌セシムヘシ
- 第九 當直醫ヨリ一名ヲ撰ヒ司藥監ノ事務ヲ兼掌セシムヘシ
當直醫
- 第一 院長ノ議ヲ承ケ入院及外來患者ノ代診ヲ爲スヘシ
- 第二 重症及變病ノ患者アルトキハ臨機救治ノ法ヲ施シ之ヲ院長ニ報告スヘシ
- 第三 檢視上ニ係ル診斷院長不在又ハ事故アリ往診シ難キトキハ事ノ輕重ニ依リ之ヲ代診スヘシ
- 第四 非常急遽ニ應スル爲メ一名宛輪番宿直スヘシ
- 第五 患者ニ與フル診斷書及ヒ死亡届死體檢按書等一應院長ニ出シ意見ヲ請フヘシ
- 第六 患者年月表ヲ製シ院長ニ出スヘシ
- 第七 患者ノ食物ヲ検査シ若シ障害ト認ムルモノハ代品ヲ出サシムヘシ
副當直醫
- 第一 院内常備ノ書籍及ヒ器械ヲ主管シ手術アルトキハ之レヲ準備ヲ爲シ破損物アルトキハ修理ノ手續ヲナスヘシ
- 第二 患者入院願其他死亡届等渾テ左ノ病室規則ニ依リ看護長ニ商議シ處分スヘシ

病室規則

- 第一 病室ヲ二部ニ分ツ
平病室(男室女室)ヲ區別ス
娼妓室
- 第二 入院料ヲ二等ニ分ツ
一等金五十錢 二等金三十五錢
但物價ノ昂低ニ依リ金額ヲ上下スヘシ
- 第三 平病人ノ入院ヲ乞フ者ハ左ノ書式ニ倣ヒ保證人ヨリ證書ヲ出サシム
但證人ハ根室住居ノ戶主ニ限ルヘシ
證書式(用紙美濃證券界紙)

右者今般入院治療相願候上ハ本人身分引受御規則相守可申ハ勿論藥餌料等上納ハ毎月二回^{十五}廿五日及
退院之節ハ當人ヨリ相納萬一滞リ候節ハ證人ヨリ速ニ辨償可仕候爲後證如件

根室縣根室郡何町村
何番地族籍職業
證人

姓 名 年 齡

但寄留ナラハ其生國明瞭ニ
記載スヘシ以下同シ

年月日

根室病院

御 中

追テ私轉居旅行等ノ節ハ速ニ御届申上身元引受ノ儀ニ付テハ少シモ差支無之様取計可申候也
前書之通相違無之候也

何郡何町村戶長

姓 名 印

年 月 日

第四 無代價入院ヲ乞フ者ハ施藥券取扱手續ニ照ラシ郡役所或ハ戶長役場ニ於テ下付スル所ノ施藥券
ヲ添ヘ左ノ書式ニ從ヒ保證人ヨリ證書出サシムヘシ
證書式(用紙美濃證券界紙)

右者今般無代價入院治療御許可相成難有奉存候然ル上ハ御規則堅ク相守可申ハ勿論御都合ニヨリ
退院御申付相成候節ハ私引受聊御迷惑相掛申間敷候爲後證如件

何府縣何國何郡何町村
何番地族籍何ノ誰父母
兄弟姉妹

姓 名 年 齡

根室縣何郡何町村
何番地族籍職業

證人 姓 名 印

伍長或ハ組頭姓名印

年月日

根室病院
御 中

追テ私轉居旅行等ノ節ハ速カニ御届申上身元引受ノ儀ニ付テハ少シモ差支無之様取計可申候也

前書之通相違無之候也

年月日

何郡何町村戸長

姓名印

第五 入院患者ニシテ死後病部解剖ヲ生前ニ請フモノハ左ノ證書ヲ出サシムヘシ

何府縣何國何郡何町村
何番地族籍何ノ誰父母
兄弟姉妹

姓名 名實印 年 齡

右之者入院罷在候處萬一不幸ニシテ病死候節ハ病部解剖御検査相願度本人志願ニ付兼テ此段相願置候也

年月日

根室縣何郡何町村何番地
族籍何ノ誰父母兄弟姉妹

姓名 名印

根室病院

御 中

第六 検査ノ上有毒娼妓ヲ入院セシムルトキハ左ノ書式ニ從ヒ願書ヲ差出サシムヘシ

入院願

根室縣根室郡何町村何番地
何某方出稼娼妓

姓名 名印

年 齡

右者今般御検査ノ上入院治療相願候上ハ本人身分引受ケ御規則相守可申ハ勿論食料上納ハ毎月三度^{十五日}_{十五日}無滯相納可申爲後證如件

年月日

右貸坐敷主

姓名 名印

根室病院

御 中

三業取締

姓名 名印

第七 入院及外來患者死亡證或ハ診斷書ヲ乞フトキハ左ノ證書ヲ附與スヘシ

死亡届

何府縣何國何郡何町村
何番地族籍何ノ誰父母
兄弟姉妹
職業

姓名 名 年 齡

病名 (寄留ナラハ其居所記載スヘシ以下同シ)

經過

死因

右者當院施治ノ患者ニ候處前書ノ通相違無之候也

年月日

根室病院醫院
姓名 名印

診斷書

何府縣何國何郡何町村
何番地族籍何ノ誰父母
兄弟姉妹
職業

姓名 名 年 齡

右者何病ニテ何月日ヨリ入院治療候處未タ全癒ニ不至候間轉地溫療養可然診斷候也

年月日

根室病院醫員

姓名

第八 死體檢按チ乞フ者アルトキハ仔細ニ死體ヲ検査シ左ノ書式ニ從ヒ檢按書ヲ與フヘシ

書式

何府縣何郡何町村何番地
族籍職業

姓

年 名 齡

病名及死亡ニ至ル所以ヲ知り得ヘキ丈ヲ記スヘシ
年月日死亡

右之者死體檢按致候處頭書之通り相違無之候也

年月日

根室病院醫員

姓

名 印

地方長官宛

第九 變死人或ハ毆鬪負傷セシ者及疾病有無等ノコトニ付警察署ヨリ檢診ヲ乞ヒ診斷書ヲ要スルトキハ篤ト検査シテ左ノ書式ニ倣ヒ差出スヘシ

檢視診斷書式

根室縣何郡何町村何番地
族籍

姓

年 名 齡

右者本日何日前後第何時何町村何番地ニ於テ警部某檢視ニ立會ノコトヲ記ス其死體發現ノ異狀及致命ノ因ハ何ニシテ他人ノ所業ニ出テタル者ヤ或ハ自殺ナルヤヲ詳記スヘシ

年月日

根室病院醫員

姓

名 印

負傷者(但死ニ至ラサル者)診斷書

右者本月何日前後第何時何町村何番地ニ於テ警部某立會ノコトヲ記シ其被傷ノ部位景狀即チ切創カ挫傷カ打傷ニシテ又他傷カ自傷ナルカ輕重并ニ豫後等ヲ詳記スヘシ

第十 外國人若シ入院ヲ乞フトキハ其族籍ヲ記シタル證書ト別ニ外國人若クハ内國人ノ中ニテ根室居

住慥カナルモノ但シ本人身分引受證書ヲ出サシメ且ツ左ノ規則ヲ指示シテ入院ヲ許スヘシ

一 入院中ハ渾テ醫院并ニ理事ノ指圖ニ從フヘシ

二 入院ヲ乞フ者ハ必ス通辨人ヲ伴フヘシ

三 藥餌ハ一切本院ヨリ支辨ス其他ノ食物モ醫員ノ許可ナクシテ用ユルヲ許サス

四 入院料ヲ三等ニ分ツ

一等一日 金四圓

二等一日 金二圓五十錢

三等一日 金一圓五十錢

但三等ハ日本上等ノ食餌タルヘシ

但物價ノ昂低ニヨリ金額ヲ上下スヘシ以下第六モ倣之

五 入院料ハ毎月三度十五日ニ納ムヘシ

六 通辨人及附添人賄料ハ金二十三錢ヲ納ムヘシ

七 外出散步ハ午後四時ヲ限リトス

但不得止事故アリ外泊スルトキハ豫メ其理由ヲ醫員ニ申出許可ヲ得ヘシ

身元引受人證書式(用紙美濃證券界紙)

何國身分或ハ官省府縣ノ雇カ日本何地何番商社中カ何官何職從者カノ類詳記スヘシ

右入院御許可相成候上ハ院中ノ諸規則爲相守入院料相拂候ハ勿論本人身上ニ關係ズル事件ハ一切引請可申候也

年月日

日本何地在留外國人若シハ内國人何何
證人 姓 名 印

根室病院 御 中

追テ私購居旅行等ノ節ハ速ニ御届申上身元引受ノ義ニ付テハ少シモ差支無之様取計可申候也

看護長

- 第一 院長其他醫員ノ回診スルトキハ隨從シテ病症經過及處方等ヲ詳細登錄スヘシ
 - 第二 入院患者アルトキハ其住所族籍姓名年齢等ヲ詳細帳簿ニ記載スヘシ
 - 第三 入院患者變症ヲ發スル等都テ異狀アルトキハ速ニ宿直醫員ニ申告スヘシ
 - 第四 朝夕患者ノ體温及脈搏ヲ度リ法ノ如ク表式書ニ記載スヘシ
 - 第五 患者危險ニ陥リ或ハ死亡セシトキハ速ニ之ヲ副當直醫ニ移スヘシ
- 司 藥 監
- 第一 藥品ニ關乏アルトキハ院長及理事ニ協議シ購求ノ手續ヲナスヘシ
 - 第二 毎月末一回藥品ノ出納ヲ調査之ヲ正算帳簿ニ登記シ藥品ヲ患者ノ員數ニ比較シ若シ消費過多ト認ムルトキハ其異見ヲ附箋スヘシ
 - 第三 診察醫員ヨリ送附スル處方箋ヲ受ケ調査ノ上檢印ヲ捺シ調藥係ヘ附與スヘシ
 - 第四 處方箋中ノ藥量若シ過分ト認ムルトキハ直ニ之レヲ診察醫員ニ詰問シ事實明了ナルニアラサレハ調合ノ手續ヲナスヘカラス

- 第五 毎朝肉羹汁ヲ製スル牛肉ト牛乳ノ良否ヲ検査スヘシ
- 第六 毒藥及劇藥ヲ筐中ニ收メ粗忽ニ放置スヘカラス

調 藥 係

- 第一 調劑ヲナシ了ラハ其處方箋ヲ再檢シ藥品并ニ秤量ニ誤錯ナキトキハ其處方箋月日ノ下ニ檢印ヲ捺シ然ル後司藥監ノ検査ヲ受ケ之レヲ患者或ハ其代人ニ附與スヘシ
- 第二 處方箋疑團アラハ司藥監ニ質問シ些少ノ事タリトモ臆斷ヲ以テ調劑スヘカラス
- 第三 患者ニ與フル藥瓶ノ標紙ニハ内服外用其他用法ヲ詳記シ務メテ誤用ヲ防キ殊ニ峻劇ノ藥品ヲ與フルトキハ其服法等ヲ懇示スヘシ
- 第四 處方箋ニ司藥監ノ印ナキトキハ調合スヘカラス殊ニ外來患者處方箋ニハ其檢印ト理事係代價濟ノ印アルニアラサレハ調合スルヲ得ス
- 第五 渾テ製劑ハ藥名分量時日及製藥者ノ姓名ヲ製藥原簿及藥器ニ詳記スヘシ
- 第六 製藥及調藥諸器ヲ務メテ清潔ニスヘシ
- 第七 藥瓶藥筐ニハ明白ニ記標ヲ貼シ其所在ヲ定メ分類シテ并列スヘシ
- 第八 一名宛輪番宿直スヘシ
- 第九 日日出納スル藥品ハ出納表ヲ製シ之レヲ詳記シ置クヘシ

理 事 係

- 第一 院中需用ノ物品ヲ調査勉メテ經費節減ニ注意シ金銀出納等ノ帳簿ヲ明瞭ニスヘシ
 - 第二 藥品器械其他諸物品購求ノ節ハ其手續ヲナスヘシ
 - 第三 收入ノ金額ヲ毎日調査シテ之レヲ日計簿ニ登錄シ日日院長ノ檢閱ヲ受ケ毎月二十五日限り現金取纏メ收入表ト共ニ縣廳ヘ差出スヘシ
 - 第四 病院收入金額并ニ收入表ヲ三箇月毎ニ取纏メ三月六月九月十二月院長ノ檢閱ヲ受ケ縣廳ヘ差出スヘシ
- 但公立病院ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スモノトス

- 第五 一時ノ差繰ト雖モ收入藥價ヲ以テ他ノ費用ニ仕拂フヘカラス
- 第六 藥餌料ハ毎月三度^{十五日}入院患者賄料ハ月末ニ可徵收ト雖モ退院スル者ハ其都度徵收スヘシ其他賄方ヨリ差出シタル明細書ハ院長ノ檢印ヲ受ケテ金員仕拂フヘシ
- 第七 但前月分入院患者表并ニ賄方受取明細書ヲ毎月三日迄ニ縣廳へ上申スヘシ
- 第八 毎月定日本院及管内各病院ノ職員月俸旅費及宿直料等ノ明細書ヲ製シ院長ノ檢閱ヲ受ケ縣廳衛生課ニ出シ既ニ受領ノ金額ハ本院ヨリ配當スヘシ
- 第九 但各郡役所へ委託ノ分ハ此限ニアラス
- 第十 毎月諸仕拂明細書ヲ製シ之ヲ縣廳ニ上申スヘシ
- 第十一 毎月二十五日限り同月購求諸物品等賣上證書正副二綴ヲ取纏メ精細之ヲ調査シ院長ノ檢閱ヲ受ケ其一綴リ縣廳へ出シ該金額受領ノ上金員受取證書ヲ徵シ本院ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ
- 第十二 每半期精算表ヲ調製スヘシ
- 第十三 施藥券ヲ持來ル患者ノ處方箋ヲ調査シ其姓名ヲ簿冊ニ登記シ患者ノ員數及藥價表ヲ製シ毎月縣廳へ差出スヘシ
- 第十四 院內破損所アルトキハ院長ニ議シ必ス縣廳ノ裁可ヲ經テ修繕スヘシト雖モ其五圓以內ニシテ一時難差置モノハ修繕著手ノ上其事由ヲ具狀スヘシ
- 第十五 各所ヨリノ移文ヲ受理シ又ハ發遣スル公書等渾テ院長ノ檢閱ヲ經テ施行スヘシ
- 第十六 醫員其他ヨリ差出シタル諸願伺届等ハ院長ノ檢印ヲ受ケ縣廳衛生課へ差出スヘシ
- 第十七 時時院內及病室ヲ巡視シ看護人及ヒ役夫ヲ指揮シ務メテ灑掃清潔ナラシムヘシ
- 第十八 浴室及ヒ火爐ニ注意シ務メテ非常ヲ警戒スヘシ
- 第十九 入院患者藥餌料定日上納遲滞スルトキハ證人ヲ呼出シ督促スヘシ
- 第二十 患者ノ親戚友人等看護ノ爲メ院內ニ宿泊ヲ願出ツルトキハ醫員へ協議シテ之ヲ許否スヘシ
- 第二十一 入院患者危險ニ陥リ或ハ死亡ノ旨醫員若クハ看護人ヨリ通知スルトキハ速ニ之ヲ證人親戚等柔ニ取扱フヘシ

へ報知スヘシ

第二十 一名宛輪番宿直スヘシ
 第二十一 外來患者處方箋ヲ持チ來ラハ其藥價ヲ記シ其金圓ヲ收受ノ後領收證書ヲ附與シ且ツ諸事温柔ニ取扱フヘシ

但其藥價左ノ如シ

水藥一日分	金六錢
丸藥同	金六錢
散藥同	金六錢
頓服水藥一日分	金三錢
同丸藥同	金三錢
同散藥同	金三錢
含嗽藥同	金五錢
點眼水一瓶	金五錢
外用藥同	金五錢
坐藥 一個	金一錢五釐
膏藥 <small>小中大</small>	金一錢
絆創膏 方一寸	金一錢
灌腸藥 一劑	金七錢
カスチル石礮一個	金三錢
泡劑 一個	金二錢
巴布 一劑	金五錢
布貼膏藥方二寸以上	金三錢

同 方二寸以下 金一錢五釐
 リント 五寸方 金三錢
 此他繙帶撒糸等拂下代價ハ購求價直ニ二割ヲ加フ
 第二十二 毎日午後外來患者散スルノ後藥價記簿ト現收入金ト突合セ違算ナキトキハ其帳簿ヘ檢印シ
 テ金額ハ三井銀行ヘ預ケ置キ苟モ不取締アルヘカラス

根室縣布達 十五年九月十六日

縣立病院醫員管内出張旅費ハ渾テ官費支給致來候處自今施藥患者及ヒ種痘等ニ關シ成規アルモノヲ除
 キ公立病院同様民費支辨可致此旨布達候事

北海道廳根室支廳達 十九年二月二十八日
 無號根室病院公立病院在動員
 追テ何分ノ儀相達候迄從前ノ通病院事務可取扱此旨相達候事

北海道廳令 二十年五月二十五日
 千嶋國紗那郡紗那病院ヲ廳立トシ根室病院所屬留別出張病院及ヒ内保派出所藥取派出所ヲ紗那病院ノ
 所屬トス

北海道廳訓令 二十年五月二十五日

其院職制ハ明治十九年四月當廳丙第四號達札幌函館根室病院ノ職制ニ依ル
 但當分職制第一條職員ノ幾分ヲ闕クコトアルヘシ

開拓使札幌本廳達 十四年九月二十八日
 第七十二號 郡區役所 戶長 役場

根室縣立病院醫員出
 張旅費支給方更正ス

根室支廳病院事務從前
 ノ通取扱ハシム

北海道廳紗那病院ヲ廳
 立トシ留別出張所及内
 保派出所藥取派出所ヲ
 屬ス

二十年五月二十五日北海
 道廳訓令號外ヲ以テ紗那
 病院職制ヲ定ム

北海道廳紗那病院職制

札幌本廳公立病院醫員
 以下月俸規則

十七年四月札幌廳達乙第
 百一十一號ヲ以テ廢止ス

公立病院醫員以下月俸并旅費規則別冊ノ通相定候條此旨相達候事

公立病院醫員以下月俸規則

第一條 公立病院醫院等級及ヒ月俸ヲ定ムル左ノ如シ

一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
自四十六圓至五十四圓	自四十一圓至四十五圓	自三十六圓至四十圓	自三十一圓至三十五圓	自二十六圓至三十圓	自二十一圓至二十五圓	自十六圓至二十圓	自十一圓至十五圓	自六圓至十圓	自七圓至八圓

第二條 病院役員月俸ハ第一條中五等以下ヲ以テ給スヘシ

第三條 月俸ハ每月月末支給スルヲ定則トス

但雇止病死其他事故アルトキハ此限ニアラス

第四條 雇入雇止増俸等ノトキハ辭令請書ノ日附ヲ推シ端日數ハ日割ヲ以テ給スヘシ

第五條 歸省其他關勤日數ハ月給五分ノ一割合ヲ以テ給スヘシ尤モ犯罪實決閏刑ニ處セラルル者ハ一
 切支給セズ

但糺問ニ涉ルモノ無罪ニ歸スルトキハ本條五分一ノ割合ヲ以テ給スヘシ

第六條 病氣引籠三十日迄ハ月俸ノ全額ヲ給シ其後ハ三分一ノ割合ヲ以テ給スヘシ

第七條 滿一箇年已上雇續ノモノ雇止ノ節ハ其雇入年數ニ應シ滿一箇年ニ付月俸半額ヲ給スヘシ若シ
 破廉耻及懲役實決ノ刑ヲ受ケシモノ又同上ノ罪ヲ犯シ自首免罪ノ者糺問中雇止スルモノハ給セズ

公立病院醫員以下旅費規則

第一章

一 旅中一切ノ費用トシテ一日十里詰ヲ以テ表面ノ日當ヲ給スヘシ(十里以上ノ端里數滿一里已上ハ日當
 一日分ヲ給シ一里未滿ハ切捨トス)

第一項 就職旅行ハ雇入ノ節該病院へ三里以上ヨリ(三里未滿ハ)一切給セズ之ヲ給ス

第二項 該院ヨリ片道六里未滿ノ旅行ハ凡テ近方派出トシテ片道二里以内ニシテ日歸リナレハ日當
 ナ給セス一泊スレハ滯留日當ヲ給ス但片道二里以上六里未滿ハ日歸一泊ノ別ナク往返ニテ並旅行

